



# 企業訪問レポート

## 地域の歩みに寄り添い高齢者の生活を支援

社会福祉法人 晃宝会 奈良県奈良市

社会福祉法人晃宝会は、緑豊かな奈良市田原地区にて特別養護老人ホーム「あじさい園」を運営しており、歯科医である松村清子園長の方針の下、口腔ケアに特に力を入れている。また、認知症高齢者のケアや終末の看取りにも力を入れているが、こうした取組みのレベルアップには、開園当初から長年勤務する、多数の経験豊富なベテラン職員が大きく貢献している。

同法人は、「あじさい園 秋祭り」等での地域交流や2番目となる特別養護老人ホーム「あじさい園 宝」の開設など、ソフト、ハードの両面を充実させ、地域との繋がりを深めつつその期待に応える取組みを継続しており、「今後も地域の歩みに寄り添いながら、しっかり地に足を着けて高齢者の生活を支援していきたい」と理事長の松村圭祐氏は語る。

### 会社概要



会社名：社会福祉法人 晃宝会  
所在地：奈良県奈良市茗荷町 808-1  
電話：0742-81-0878  
FAX：0742-81-0373  
設立：1994（平成6）年3月  
代表者：理事長 松村 圭祐  
資本金：264 百万円  
従業員：176 名（パート含む）  
事業内容：特別養護老人ホーム等  
URL：<http://www.ajisaien.or.jp/>



特別養護老人ホーム「あじさい園」

### 「社会の役に立ちたい」という強い思いから設立

社会福祉法人晃宝会は、奈良市東部の緑豊かな里山、田原地区にて特別養護老人ホーム「あじさい園」を運営しており、自営業を営んでいた木村三郎氏（初代理事長）により、1994年3月に設立された。当時、奈良市には介護施設が不足しており、市の職員をしていた親族から協力を求められたことが設立のきっかけだった。同氏は大病を患い生死をさ迷いながらも命を救われた経験があり、かねてから「是非とも社会の役に立ちたい」という強い思いを抱いており、多額の私財を投じ、寄付金や土地の調達等多くの困難を乗り越え、1996年4月、入所定員54名の特別養護老人ホームの開設に漕ぎつけた。同時に、家族による生活援助が困難な方が入居するケアハウス、要支援・要介護の高齢者が短期間入所するショートステイ、日帰りで施設介護サービスを利用できるデイサービスの各種介護事業を開始した。

「あじさい園」は、開園当初から園長を務める松村清子氏（初代理事長の長女）が歯科医であることから、口腔ケアに特に力を入れている。「いつまでも美味しく食べて健やかに」をモットーに、摂食、嚥下（えんげ、食物を飲み下すこと）、咀嚼（そしゃく）などの口腔内の働きを維持・回復できるよう、歯科医・歯科衛生士による利用者への直接指導や、介護職員への口腔衛生指導を行い、誤嚥性肺炎（ごえんせい）等の予防に努めている。三代目となる現理事長の内科医、松村圭祐氏（園長の夫）も「咀嚼こそ長寿の秘訣」と口腔ケアの重要性を説く。

### 組織のレベルアップに貢献してきたベテラン職員

同法人では認知症高齢者のケアにも早くから問題意識を持って取り組んでおり、2000年の介護

保険法施行に伴い「グループホームあじさい園（認知症対応型共同生活介護）」を開設する以前から、介護スキルの向上、ノウハウ蓄積に努めてきた。その成果は法人目標『あいうえお介護』（あせらさない、いじめない、うんとやさしく、えがおで、おこらない）に結びつき、職員の規範となっている。現在はターミナルケア（終末の看取り）にも力を入れており、いつ訪れるかわからない入所者の最期にも落ち着いて対応できる職員が増えている。

こうした法人全体のレベルアップに大きく貢献してきたのが、開園当初から長年勤務してきた経験豊富なベテラン職員で、現在も多数在籍し法人運営を支えている。園長は「何か事がある度に基本理念『感謝、機転、謙虚、笑顔、清潔』に立ち返って解決にあたる」といい、その姿勢はベテラン職員にも浸透している。

2015年4月には、同法人として2番目となる特別養護老人ホーム「あじさい園 宝」を奈良市の市街地に開設。初代理事長の孫娘（「あじさい園」園長の姪）で歯科医の山田麻記子氏が園長を務め、創業者の遺志を継いで施設の運営にあっている。開園から3年足らずと日が浅く、若い職員も多いが、ベテラン職員との交流も頻繁に行われており、各自が前向きにスキルアップに取り組んでいる。



2015年4月に事業を開始した「あじさい園 宝」

## 地域との繋がりを深め、期待に応える

「あじさい園」は、お誕生日会、音楽療法、絵画教室などの月例行事に加え、地域の保育園・幼稚園・小中学校との交流会や、田原の伝統芸能「祭文踊り」「田原太鼓」が披露される「あじさい園 秋祭り」等を開催し、地域住民との交流にも

力を入れている。「お年寄りが安心して楽しく過ごせる施設に」という初代理事長の思いは、田原地区に住む人々の温かい支援なしには成し得ず、現理事長は「歴史ある田原の地にご縁があることに感謝している」と語る。

同法人は2006年より「奈良市東部地域包括支援センター」の業務を奈良市から受託し、柳生、都祁、月ヶ瀬等、奈良市の3分の1を占める広範な東部地域において、地域住民と医療、介護等を繋ぎ、高齢者の生活を支援している。



保育園児との交流会（左）と秋祭りの「田原太鼓」（下）



さらに、2017年4月には地域包括ケアシステムにおける地域貢献事業として、東大寺に程近い奈良市水門町にオレンジカフェ「すいもん」（認知症カフェ）をオープン。ピアノの生演奏や田原地区の野菜販売等を開催し、認知症高齢者とその家族、地域住民、医療・介護関係者等が集う場を提供している。

このように同法人はソフト、ハードの両面を充実させることで、地域との繋がりを深めつつ、その期待に応える取組みを継続している。

長寿命化により、介護を要する高齢者が益々増加すると見込まれる中、介護人材の不足や社会保障費の抑制等、同法人が直面する課題は多いが、「今後も地域の歩みに寄り添いながら、その時々々の社会の要請に応じつつ、しっかり地に足を着けて高齢者の生活を支援していきたい」と現理事長は語る。（前田 徹、島田清彦）